

問1 世界の農産物生産において、ブラジルが世界最大の生産量を誇り、次いでインド、中国の順に多く生産されている作物があります。この作物が、近年エネルギー分野で注目されている理由として正しい説明を選びなさい。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 光ファイバーの被覆材として、情報通信技術の発展に不可欠なため | 2. 砂漠化が進む地域において、乾燥に強い食糧資源として期待されるため | 3. 発酵・蒸留させることで、自動車などのバイオ燃料の原料になるため | 4. 家畜の飼料としての需要が急増し、肉類の生産コストを抑えるため |
|-----------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|

問2 南アメリカ大陸の形状について述べた説明において、大陸が最も細くなっている最南端の先端部分を水平に横切るように位置している緯線はどれか。北アメリカ大陸のアメリカ合衆国とカナダの国境線の一つである北緯49度に近い数値であることを参考に答えなさい。 (2022年 愛知県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1. 南緯20度 | 2. 南緯30度 | 3. 南緯50度 | 4. 南緯40度 |
|----------|----------|----------|----------|

問3 16世紀から19世紀にかけて、南アメリカの植民地における農園や鉱山での労働力として、アフリカ州から多くの人々が強制的に連れてこられた歴史的背景に関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 福島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 南アメリカ大陸の人口を急激に増やすことで、ヨーロッパ本国からの独立を早める狙いがあった。 | 2. アフリカの気候が南アメリカの山岳地帯と酷似しており、高地での労働に適していたため。 | 3. アフリカの諸王国から最新の農業技術を導入するため、専門的な技術者を組織的に招いた。 | 4. 現地の先住民が感染症や過酷な労働によって激減したため、不足した労働力を補う必要があった。 |
|---|--|--|---|

問4 日本の農業に関する統計において、沖縄県が全国の生産量の約6割を占め、次いで鹿児島県が約4割を占めるという、南西諸島での栽培が盛んな作物は何か選びなさい。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|------|----------|--------|---------|
| 1. 茶 | 2. さとうきび | 3. いぐさ | 4. てんさい |
|------|----------|--------|---------|

問5 地球温暖化の対策として導入が進んでいるバイオ燃料は、燃焼時に二酸化炭素を排出するにもかかわらず、大気中の二酸化炭素を実質的に増加させないとされています。その理由を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2021年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 化石燃料と比較して、燃焼時に発生する熱エネルギーが非常に効率よく蓄積されるため。 | 2. 加工の段階で特殊な薬品を混ぜることで、二酸化炭素を酸素に分解する性質を持たせているため。 | 3. 原料となる植物が、成長過程の光合成によって大気中の二酸化炭素を吸収しているため。 | 4. 燃焼時に発生する成分が、酸性雨の原因となる硫酸化物や窒素酸化物を中和するため。 |
|---|---|---|--|

問6 ブラジルなどの農業地域では、サトウキビが砂糖の原料としてだけでなく、環境に配慮したエネルギー源としても活用されています。このようにサトウキビを燃料として利用することが、地球温暖化対策に繋がると考えられている理由として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 地下資源を掘り起こす必要がないため、採掘の際に行われる森林破壊や地盤沈下を防ぐことができるから。 | 2. 石油や天然ガスなどの化石燃料と比較して、燃焼時に二酸化炭素を一切排出しないという性質を持っているから。 | 3. サトウキビから燃料を抽出する際に、温室効果ガスを吸収する特殊な副産物が生成される仕組みがあるから。 | 4. 原料となる植物が成長する過程で二酸化炭素を吸収するため、燃焼しても大気中の二酸化炭素を実質的に増やさないとされるから。 |
|---|--|--|--|

問7 日本では、国内産の供給が不足する時期に、季節が反対になる南半球の国々から多くの農産物を輸入しています。カボチャなどの輸入において、このような地理的特性を活かして日本への輸出を行っている代表的な国はどこですか。 (2022年 岐阜県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|------------|-------------|------------|
| 1. タイ | 2. アメリカ合衆国 | 3. ニュージーランド | 4. 中華人民共和国 |
|-------|------------|-------------|------------|

問8 1960年代半ば、オーストラリアにとってイギリスや日本は主要な輸出相手国でしたが、2010年代の統計では、中国が輸出額の約3割を占める最大の貿易相手国となり、イギリスの割合は極めて小さくなっています。このような変化が起こった背景として、1970年代にイギリスが行った行動と、その後のオーストラリアの動向について説明した文として最も適切なものはどれか。 (2017年 静岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. イギリスが東南アジア諸国連合（ASEAN）への加盟を求めた際、オーストラリアが反対したため両国の貿易関係が悪化し、結果として中国との二国間貿易が急増した。 | 2. イギリスが資源保護のために鉄鉱石の輸入を全面的に禁止したため、オーストラリアは新たな輸出先としてアメリカ合衆国や中国などの環太平洋諸国を選択した。 | 3. イギリスが欧州共同体（EC）に加盟したことで、それまで結びつきの強かったオーストラリアとの経済的なつながりが弱まり、オーストラリアは地理的に近いアジア市場への輸出を拡大させた。 | 4. イギリスが北米自由貿易協定（NAFTA）を主導したことで、オーストラリア産の農産物に高関税がかけられるようになり、オーストラリアはアジア諸国との貿易に活路を見出した。 |
|--|--|---|--|

問9 ブラジルでは広大な国土を活かした農業が盛んですが、近年の環境問題やエネルギー政策とも深く関わる特徴が見られます。サトウキビの生産に関連して、ブラジルで行われている取り組みとして正しいものはどれですか。 (2023年 富山県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. サトウキビ畑をすべて大豆の栽培に切り替えることで、世界的な食料不足に対応する食料安全保障政策を推進している。 | 2. サトウキビを原料としたプラスチックの製造を禁止し、伝統的な木材加工業を輸出の中心に据える政策に転換した。 | 3. サトウキビの絞りかすを家畜の飼料として輸出することに特化し、大豆に代わる世界最大のタンパク質供給源となっている。 | 4. サトウキビを原料としてバイオエタノールを製造し、自動車の燃料として普及させることで、二酸化炭素の排出抑制を図っている。 |
|---|---|---|--|

問10 ニュージーランドにおける移民の歴史や社会政策について説明した記述として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 北極圏から移動してきたイヌイットの生活様式を国の基盤としており、トナカイの遊牧を中心とした社会を維持している。 | 2. 白人以外の移民を制限する白豪主義と呼ばれる政策を長年維持しており、先住民の文化を公に認めることは禁じられている。 | 3. イギリスの植民地であった歴史背景を持つが、現在は先住民であるマオリの言語を公用語の一つに定め、多文化社会の形成を進めている。 | 4. オーストラリアの先住民であるアボリジニの文化を全面的に取り入れ、アジアからの移民を厳しく制限する政策をとっている。 |
|--|---|---|--|

問11 オーストラリアやチリなどの南半球の国々から、オレンジやぶどうなどの農産物を輸入する際、日本の農業において農作物の出荷が途切れる時期を補う仕組みが重要視されます。このように、農作物の収穫・出荷が行われない時期のことを何と呼びますか。 (2026年 栃木県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------|---------------|----------------|---------------|
| 1. 停滞期（ていたいき） | 2. 閑散期（かんさんき） | 3. 休耕期（きゅうこうき） | 4. 端境期（はざかいき） |
|---------------|---------------|----------------|---------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 発酵・蒸留させることで、自動車などのバイオ燃料の原料になるため	ブラジルなどでは、この作物を原料としたバイオエタノールの生産が非常に盛んです。化石燃料の消費を抑え、燃焼しても大気中の二酸化炭素総量に影響を与えないという「カーボンニュートラル」の考えに基づき、地球温暖化対策の有効な手段として利用が広がっています。
問2	答え 3 南緯50度	南アメリカ大陸は南に向かうにつれて大陸の幅が狭まり、その最南端付近には南緯50度の緯線が通っています。この緯度は、北半球でアメリカとカナダの国境線となっている北緯49度とほぼ同じ緯度にあたり、南アメリカ大陸が南極に近い非常に高い緯度まで伸びていることを示しています。
問3	答え 4 現地の先住民が感染症や過酷な労働によって激減したため、不足した労働力を補う必要があった。	南アメリカに入植したヨーロッパ諸国は、当初は現地の先住民を労働力として利用しようとしたが、ヨーロッパから持ち込まれた天然痘などの感染症や、不慣れな環境下での過酷な労働によって先住民の人口が激減しました。この深刻な労働力不足を解消するために、奴隷貿易を通じてアフリカ州から多くの人々が連行され、プランテーションや鉱山で働かされることになりました。これは世界的な規模で行われた三角貿易の一部でもあります。
問4	答え 2 さとうきび	熱帯や亜熱帯の暖かい気候を好むため、日本では沖縄県と鹿児島県の南西諸島に生産が集中しています。北海道で生産が盛んな「てんさい」とともに砂糖の主な原料となるほか、近年では再生可能エネルギーであるバイオ燃料の原料としても注目されています。
問5	答え 3 原料となる植物が、成長過程の光合成によって大気中の二酸化炭素を吸収しているため。	バイオ燃料はサトウキビやトウモロコシなどの植物を原料としています。これらの植物は成長する際に光合成を行い、大気中の二酸化炭素を吸収します。そのため、燃料として燃やした際に放出される二酸化炭素は、もともと植物が吸収した分を大気に戻しているだけであるとみなされ、全体としては二酸化炭素量を増やさないという「カーボンニュートラル」の考えに基づいています。
問6	答え 4 原料となる植物が成長する過程で二酸化炭素を吸収するため、燃焼しても大気中の二酸化炭素を実質的に増やさないとされるから。	バイオエタノールなどのバイオ燃料は、燃焼時に二酸化炭素を排出しますが、その二酸化炭素は原料となる植物が成長過程で光合成によって吸収したものです。このため、大気中の二酸化炭素の総量に影響を与えないという「カーボンニュートラル」の考え方に基づき、地球温暖化の抑制に寄与するエネルギーとして注目されています。化石燃料は地中に固定されていた炭素を排出するため、この点が大きな違いとなります。
問7	答え 3 ニュージーランド	選択肢の中で南半球に位置するのはニュージーランドのみです。タイは低緯度の熱帯地域にあり、アメリカ合衆国と中華人民共和国は日本と同じ北半球に位置しています。日本が冬の時期に収穫期を迎える南半球の特性を活かし、ニュージーランドからはカボチャやキウイフルーツなどが多く輸入されています。
問8	答え 3 イギリスが欧州共同体（EC）に加盟したことで、それまで結びつきの強かったオーストラリアとの経済的なつながりが弱まり、オーストラリアは地理的に近いアジア市場への輸出を拡大させた。	1973年にイギリスが欧州共同体（EC）に加盟したことは、当時のオーストラリアにとって大きな転換点となりました。それまでイギリスは旧宗主国として最大の輸出先でしたが、EC加盟によりイギリスがヨーロッパ域内の貿易を優先するようになったため、オーストラリアは新たな輸出市場をアジアに求めるようになりました。高度経済成長期の日本、そして2000年代以降は急速な経済発展を遂げた中国が最大の貿易相手国となり、現在は地理的・経済的にアジアの一員としての側面を強めています。
問9	答え 4 サトウキビを原料としてバイオエタノールを製造し、自動車の燃料として普及させることで、二酸化炭素の排出抑制を図っている。	ブラジルはサトウキビの生産量が世界最大級であり、これを砂糖の原料としてだけでなく、植物由来のバイオ燃料（バイオエタノール）に加工する技術が発達しています。多くの自動車がバイオエタノールとガソリンのどちらでも走行できる「フレックス燃料車」として普及しており、化石燃料の使用削減と地球温暖化対策の一環として国際的にも注目されています。
問10	答え 3 イギリスの植民地であった歴史背景を持つが、現在は先住民であるマオリの言語を公用語の一つに定め、多文化社会の形成を進めている。	ニュージーランドはかつてイギリスの植民地でしたが、1980年代以降、先住民マオリの権利回復や言語の公用語化など、多様な民族の文化を尊重する「多文化主義」の政策を推進しています。これに対して白豪主義は隣国のオーストラリアがかつて行っていた政策であり、イヌイットは北米などの北極圏に住む人々を指します。
問11	答え 4 端境期（はざかいき）	端境期とは、古い作物の在庫がなくなる時期と、新しい作物が収穫される時期の間の、品薄になる期間を指します。日本は南半球の国々と貿易を行うことで、この端境期を解消し、食生活の安定を図っています。これは季節が逆転している南半球の国々との地理的関係を最大限に活用した貿易の形です。